

I C T 学習教材コンテンツ活用実践事例

| | | 学校名 | 県立むつ養護 | 学校 |
|--------------|--|--|--|-----------|
| 授業について | 教科領域名 (✓又は■で記入する。) | <input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数・数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 外国語・外国語活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input checked="" type="checkbox"/> 図画工作・美術 <input type="checkbox"/> 体育・保健体育 <input type="checkbox"/> 技術・家庭 / 職業・家庭 / 職業 / 家庭 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 総合的な学習（探究）の時間 <input type="checkbox"/> 日常生活の指導 <input type="checkbox"/> 生活単元学習 <input type="checkbox"/> 作業学習 <input type="checkbox"/> 遊びの指導 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> その他（ ） | | |
| | 単元(題材)名 | 版画を刷ろう（紙版画） | | |
| | 単元(題材)の目標 | 表現したいものを思いついたり、工夫して紙版を作ったりする。 | | |
| 学習集団と実態 | 学部・学年・人数 | 小学 | 部 | 1・2 年 2 人 |
| | 本単元(題材)における学習集団の主な実態 | <ul style="list-style-type: none"> ・図画工作の学習への意欲関心はとても高い。 ・互いの行動を手本にしたり、競い合ったりしながら意欲的に学習に取り組むことができる。 ・思い通りにできなかつたり、制作に難しさを感じたりすると急に消極的になったり、活動が停滞したりすることがあり、言葉掛け等の支援を要することもある。 | | |
| I C T 活用について | 使用した支援機器・教材の名称 | プロジェクター、パソコン | | |
| | 使用したアプリケーションの名称 | PowerPoint |  | |
| | 主な活用の用途 (✓又は■で記入する。) | (複数選択可能) <input type="checkbox"/> コミュニケーション支援 (<input type="checkbox"/> 意思伝達支援 <input type="checkbox"/> 遠隔コミュニケーション支援) <input checked="" type="checkbox"/> 活動支援 (<input checked="" type="checkbox"/> 情報入手支援 <input type="checkbox"/> 機器操作支援 <input type="checkbox"/> 時間支援) <input type="checkbox"/> 学習支援 (<input type="checkbox"/> 教科学習支援 <input type="checkbox"/> 認知発達支援 <input type="checkbox"/> 社会生活支援) <input type="checkbox"/> 実態把握支援 | | |
| | I C T 活用のねらい | 児童が表現したいものを思いついたり、工夫して紙版を作ったりすることができるようにすることをねらい、写真やイラストを使用しながら紙版画とは何か、どのように制作するのか、どのような作品があるのかを説明した。 | | |
| 活用の状況と支援 | <ul style="list-style-type: none"> ○活用場面 <ul style="list-style-type: none"> ・図画工作の単元1時間目（制作オリエンテーション） ○行った支援 <ul style="list-style-type: none"> ・PowerPointの1枚のスライドには、多くの情報が入りすぎないように留意した（写真1に対して文字1等）。 ・言葉での理解を促すため、画像やイラストに文字を必ず示した。 ・文字を読みやすくするため、文字のフォントはUD体にし、大きさは60P程度にした。 ・文字に注目を促すために、蛍光ペン機能を使って文字を強調した。 ・作品例のスライドを見せる前に、クイズを出してどのように見えるか、児童の考えを引き出すようにした。 ・スライドを進めるタイミングは、児童2名の発言等の様子を見ながら行った。 ○児童の様子・変容 <ul style="list-style-type: none"> ・紙版画を制作した経験がなかったが、PowerPointのスライドに注目して発言したり、スライドの写真について質問したり、紙版画のデザインをどうするか考えたりするなど、紙版画の制作に意欲を見せる様子が見られた。 ・未経験の制作に対して慎重な児童は、途中活動の停滞があったものの、指導者と一緒に色画用紙をさまざまな形に切ったり貼ったりして、紙版を作ることができた。 ・版を刷る活動では、版を刷る手順や注意点などを覚えて児童2名とも積極的に取り組むことができ、B4サイズの版画を完成できた。 | | | |